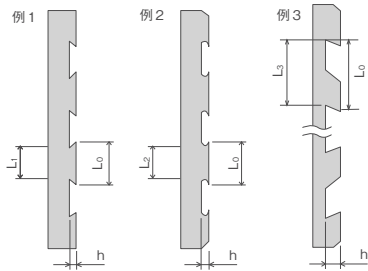


裏あしの形状および高さ (mm)

屋外壁でモルタル張り、プレキャストコンクリート工法用タイルには、以下の裏あしを付ける必要があります。



A 裏あしの形状

形状は、あり状とし、製造業者が定めます。あり状とは、図の例1、例2、例3のような形状をいいます。このとき、L1、L2はL0より、L3はL4より小さくしなければなりません。

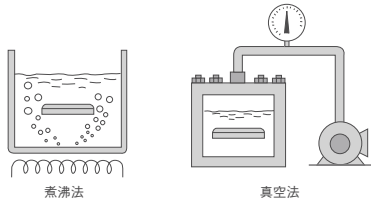
B 裏あしの高さ (h)

制作寸法で定めた部位を測ります。

タイル表面の面積	裏あしの高さh(mm)
15cm ² 未満	0.5以上3.5以下
15cm ² 以上60cm ² 未満	0.7以上3.5以下
60cm ² 以上	1.5以上3.5以下

タイルの目地共寸法が150×50mmおよび200×50mmのものについては、1.2mm以上、3.5mm以下とします。

吸水率 (%)

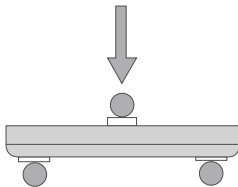


強制吸水試験(煮沸法または真空法)で測り、素地が緻密かどうか、気孔が多いかどうかの目安になります。自然状態でどれだけ吸水するかという試験ではないため、耐凍害性の判断にはなりません。耐凍害性は凍結融解試験で評価します。

吸水率による区分	吸水率 (%)
I類	3.0以下
II類	10.0以下
III類	50.0以下

曲げ破壊荷重 (N)

タイルの端から約5mmのところを支持棒をおき、タイルの中央に荷重をかけたときの、タイルの幅1mmに換算したときの破壊荷重です。ただし各辺が35mm以下のタイルには適用しません。



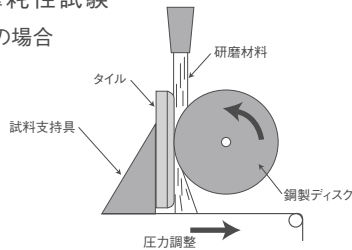
使用部位	タイル表面の面積	曲げ破壊荷重	
屋内壁	—	108以上	
屋内床、浴室床	—	540以上	
屋外壁	モルタル張り用、 タイル先付けプレキャスト コンクリート工法用、 接着剤張り用	60cm ² 未満	540以上
		60cm ² 以上	720以上
屋外床		60cm ² 未満	540以上
		60cm ² 以上	1080以上

複数の面で構成された役物の場合、大きい方の面積を適用します。

耐摩耗性

A 耐素地摩耗性試験

a) 無ゆうタイルの場合



使用部位が屋外床および屋内床のタイルに使用します。

A 耐素地摩耗性試験

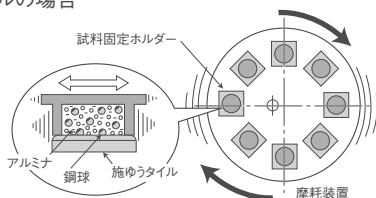
回転している鋼製ディスクをタイルに押し当て、ディスクとタイルの間に研磨剤を落下させます。150回転させた後のタイルの摩耗体積 (mm³) を測ります。

使用部位の区分		摩耗体積 (mm ³)
屋外床	通常の場合	345以下
屋内床	土足で歩く場所	540以下

※人通りの多い場所に使用するタイルは、175mm³以下が望ましいとされています。
※素足で歩く場所に使用するタイルには、適用しません。

B 耐表面摩耗性試験

b) 施ゆうタイルの場合



B 耐表面摩耗性試験

タイルの表面に、鋼球、アルミナと水を入れた容器をおき、ふたをして、偏心回転させます。一定回転ごとにタイルを取り出し、変化が認められるかどうか目視観察。最初に変化が認められた回転数で0~5の6段階にクラス分けをし、当事者間の協定により測定します。